

土砂災害への備えに関するセミナーの開催概要（北海道・札幌市）

- 日時 令和7年2月17日（月） 18:00～19:45
- 場所 手稲コミュニティセンター（札幌市手稲区手稲本町3条1丁目3-41）
- 参加者 93名

【プログラム】

- ・土砂移動現象の特徴について 山田 孝（北海道大学大学院農学研究院 特任教授）
- ・土砂災害から身を守るために～札幌市の取組～ 染矢 洋（札幌市危機管理局）
- ・手稲山地区地すべりの取組について 片岡勝裕（北海道建設部土木局）
- ・土砂災害防止に向けた対策について 宝住誓司（北海道開発局建設部河川計画課）

【主なご発言】

- 「対策できるように全力を尽くして欲しい。」
- 「関連機関連携して事業を進めて欲しい。」
- 「適宜情報提供して欲しい。」



【具体的な質問と回答】

- Q1：現状や取組の説明を受けて、理解を深められたので、これからも、情報提供をお願いしたい。引き続き、関係する機関と連携を強めて、早急に対策できるよう全力を尽くしてほしい。**
A1：今後も適宜情報提供するとともに、札幌市、北海道開発局と連携しながら対策を進めていく。
- Q2：事業主体は北海道か。**
A2：地すべり対策事業については、基本的に都道府県が実施する事業であり、北海道で地すべり対策に必要な地すべり防止区域の指定手続きを進めている。
- Q3：詳しいスケジュールを教えてください。対策工事後は安全度が上がるのか。**
A3：今年度の指定を目指しており、次年度以降、工事基本計画を策定し、工事に向けた調査・設計や用地取得を行い、工事着手を予定。地下水位を下げることなどにより安全度は向上する。
- Q4：北海道内において、手稲山地区の緊急度は高いのか。**
A4：直ちに危険な状態ではないが、気候変動により降雨量の増加が見込まれている中、地すべり規模が大きく麓には市街地や重要な交通網などが存在しているため、事前防災の必要性が高い。
- Q5：市道のクラックについて、原因やその影響について考えを聞きたい。**
A5：現時点では緊急性が高いものではないと考えている。今後詳細な調査を行い、原因を含めて対応を考える。
- Q6：指定の見込みや事前防災の観点について、国の取組について見解を伺いたい。**
A6：国交省としても年度内の指定に向けて調整しており、引き続き、技術的な協力をしていく。
- Q7：他の土砂災害警戒区域でも対策は行わないのか。防災意識向上に向けて、どう取り組むのか。**
A7：北海道と札幌市で連携しながら検討していきたい。出前講座による地域への説明や広報紙など、随時情報提供して防災意識の啓発を図っていく。